

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

中国人日本語学習者の「念押し」表現に見る母語の影響：

I-JASのロールプレイにおける依頼表現に基づいて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS) 作成者: 迫田, 久美子, 蘇, 鷹, 張, 佩霞, SU, Ying, ZHANG, Pei-xia メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001521">https://doi.org/10.15084/00001521</a>

## 中国人日本語学習者の「念押し」表現に見る母語の影響 —I-JAS のロールプレイにおける依頼表現に基づいて—

迫田久美子 (国立国語研究所日本語教育研究領域・広島大学)<sup>1</sup>

蘇鷹 (湖南大学) 張佩霞 (湖南大学)

### Pragmatic transfer observed in expressions of emphasis by Chinese JFL learners-Based on requests in I-JAS role-play data-

Kumiko Sakoda (National Institute for Japanese Language and Linguistics, Hiroshima University)

Su Ying (Hunan University) Pei-Xia Zhang (Hunan University)

#### 要旨

「念押し」表現とは、「今、週三日働いていますが、二日にしたいです。いいですか？」の「いいですか」のように話し手の意向や要望などのまとまりのある文の後に、聞き手に是非を確認する疑問文形式の問いかけ表現を指す。本研究は、多言語母語の日本語学習者横断コーパス j (I-JAS) のロールプレイに見られる「念押し」表現が中国語話者に多く見られたことから、母語の影響を考え、その可能性を探る。

#### 1. はじめに

本稿は、依頼表現に観察される中国語母語話者の特徴的な言語表現が母語の影響を受けている可能性があることを示し、「依頼」場面における語用論的転移について検討することを目的とする。

具体的には、迫田 (2015、2016) で行った中国語、英語、フランス語、スペイン語を母語とする日本語学習者の依頼のロールプレイにおけるデータにおいて観察された中国語母語話者の特徴的な表現を取り挙げ、日本語および中国語母語話者同士の調査結果と比較し、母語の語用論的転移 (pragmatic transfer) の可能性を論じる。

#### 2. 依頼表現の研究

##### 2.1 依頼の定義

「依頼」の定義に関しては、さまざまな研究者によって定義がなされているが、いずれも聞き手に何らかの負担をかける行為であるとする点は共通しており、どのような言語形式を用いるかに関しては、聞き手に与える印象に大きくかわることが指摘されている。

##### 2.2 日本語母語話者と学習者の依頼表現の研究

柏崎 (1992) によると日本語母語話者は直接的な表現や言い切りを避け、「鍵をもっていないんですけど...」のように状況を述べ、間接的な表現を使うのに対し、中国語母語話者は「鍵を貸してください」のような言い切りの表現が多いと述べている。志村・生駒 (1992) の英語学習者の「断り」の研究でも、同様に学習者が中途終了文 (言いさし文) の使用が少なくなることが指摘されている。

<sup>1</sup> sakodak@ninjal.ac.jp

鮫島(1998)は、中国語話者を対象として談話完成テストを実施し、依頼場面の言語使用を分析して「～てください」のような直接的な表現が中国語の影響を受けていると結論づけている。また、李(2008)は、依頼場面の質問紙調査を行い、日本語では上下関係を重要視して、距離を置く「詫び」などの「ネガティブ・ポライトネス」を表す傾向があるのに対し、中国語では信組関係を重視して、親近感を示す「感謝」などの「ポジティブ・ポライトネス」が用いられることを明らかにしている。

### 2.3 迫田(2015, 2016)の研究

これまでの研究では、多くの研究が談話完成テストなどの記述調査であったり、人数が少なかったり、対照の母語が1カ国であったりするなどの問題点がある。

迫田(2015)は、多言語母語の日本語学習者横断コーパス *International corpus of Japanese as a second language (I-JAS)* に収録のフランス語、スペイン語、英語、中国語の4言語を母語とする日本語学習者各15名、合計60名の依頼場面のロールプレイを分析し、同様のロールプレイと比較した。ロールプレイは、日本料理店でアルバイトをしている学生が忙しくなったので、週三日の勤務を週二日に変更したいと店長に依頼する内容である。分析対象としたのは、アルバイトの学生が店長に声をかけ、話を切り出す部分を「開始部」(例 あの一、ご相談があるんですが)、「前提部」(例 今、週三日働いているんですが)、「依頼部」(例 週二日に変更させていただきたいんですけども)のパートに分けて、どのような表現を用いているかを(1)の文に分類して分析した。

- (1) a. 「言いさし(中途終了文)」(例 お話したいことがあるんですが)
- b. 「質問文」(例 今、少しよろしいでしょうか?)
- c. 「平叙文」(例 店長、話があります)

その結果、(i) 日本語学習者は母語の違いにかかわらず、開始部や依頼部で「言いさし(中途終了文)」の使用率が低い。(ii) 学習者は前提(現在は三日働いている)を述べないで依頼を始める学習者がいる。(iii) 日本語母語話者は、依頼部では謝罪表現が多いのに対して、学習者は謝罪表現の使用が少なく、質問文や平叙文を使って交渉する。(iv) 学習者は「～させていただく」など、使役と授受表現を使用した複雑な丁寧表現使えていない、などの結果が出た。

迫田(2016)は、迫田(2015)の調査対象者を増やし、同様の調査で日本語能力レベルの上位群と下位群、中国語話者群は、得点の幅が広がったため、下位・上位・最上位の三群に分け、合計90名でレベル差による傾向と母語の違いによる傾向について分析を行った。その結果、レベル差による傾向として、ロールプレイの開始部において言いさし文の使用率が高くなっており、レベル差が影響を与えることが認められた。一方で、依頼部では母語の違いにかかわらずレベルが高い学習者でも言いさし文が使えていなかった。さらに、日本語母語話者は「申し訳ないんですが」等の謝罪や謙譲表現を多用するのに対し、学習者はレベルが高くなってでも使用しない傾向が見られた。

中国語話者には、(2)のように依頼発話の最後に「いいですか」のような表現が見られた。

- (2) 店長、すみません、時間がありますか

(あ、はい、いいですよ。どうしました?)

えーと、ちょっとね、私は今、えと、私、私の

今の勉強は、えと、授業が多くなりましたけど、忙しくなります、そして、私は、えと、いっしょうに、えーと、に、えー、に、ににちが、はたらたいです、いいですか

### 3. 学習者コーパスの分析

本研究では、依頼のひとまとまりの談話が言い切りで終了した後で、さらに是非を問う「いいですか」「よろしいでしょうか」などの文を「念押し表現」とし、ある母語話者に特有の傾向が見られるかどうか、それが母語の影響であるかどうかを明らかにする。

#### 3.1 日本語学習者の結果

分析対象は、迫田（2016）で用いた I-JAS と未公開分のデータから、フランス語、スペイン語、英語を母語とする学習者各 20 名、中国語を母語とする学習者 30 名、日本語母語話者 15 名、計 105 名である。「依頼」のロールプレイの依頼部において、「念押し」表現を使用した学習者の人数（割合）を表 1 に示した。

中国語話者の下位群に「念押し」表現が多用されており、中国語話者に特徴的な傾向が示唆される。具体的な発話例を(3)～(5)に示す。( )は補足を表す。

表 1 ロールプレイの発話における「念押し」表現の使用人数と割合

	スペイン語話者	フランス語話者	英語話者	中国語話者
下位群 (n=10)	1 (10%)	2 (20%)	1 (10%)	5 (50%)
上位群 (n=10)	0	1 (10%)	0	1 (10%)
最上位群 (n=10)				1 (10%)

(3) にひ(二日)、で、働きたいです、あ、それはいいんですか(英語話者下位群 EAU11<sup>2</sup>)

(4) 二つの日にかえりにいきたいです、したいです、どう思いましたか、店長は  
(中国語話者下位群 CCM06)

(5) いしゅうかん、いしゅうかん、ふつかになってほしいと思います、よろしいでしょうか  
(中国語話者最上位群 CCM33)

#### 3.2 中国語母語話者の結果

このような「念押し」表現の多用が母語の影響を受けているかどうかを調べるために、中国語母語話者同士の依頼表現で「念押し」表現が使用されるかどうか、母語話者同士の調査を行った。迫田（2016）とは異なる日本語学習経験がほとんどない中国語母語話者 12 名に対し、中国語話者の調査者が同じロールプレイを実施し、依頼部の発話を分析した。中国語で行われたデータは、中国語に文字化、その後、日本語に直訳して分析を行った。

その結果、12 名中、8 名（66%）が依頼部の終結部で「可以吗」のような表現が使われていた。表 2 に直訳の日本語訳と共に 2 名の具体例を示す。

表 2 中国語母語話者同士が行った依頼部分の中国語の発話例とその日本語訳

被験者	発話（中国語）	日本語訳
CNS02	店长最近由于我学业比较忙,我想把打工时间由三天改到两天,行吗?	店長さん、最近学校が忙しくなりました、働く時間を元の三日間から二日に短縮したいです。 <u>よろしいでしょうか。</u>
CNS08	但是最近我,因为学习功课比较忙,然后就想把你,把我的工作时间,请您帮我调成两天,可以吗?	しかし私は最近、学校が忙しくて、それから店長さんの、私の働く時間を、週に二日に変更する。 <u>よろしいでしょうか。</u>

<sup>2</sup> EAU11 は、I-JAS の学習者 ID を示す。EAU の E は母語 (English) の略を示す。

#### 4. まとめ

本研究は、迫田（2015, 2016）で分析した I-JAS の依頼のロールプレイの発話から、中国語話者の日本語学習者特有の「念押し」表現を取り上げ、日本語学習の経験がほとんどない中国語母語話者を対象として母語で行った結果を分析する。

同じ依頼のロールプレイを母語の中国語で行った場合に、日本語の「いいですか/よろしいですか」にあたる中国語の「可以吗？」が「念押し」表現のように使用されるかどうかを調査した。その結果、12人中8人（66%）の母語話者が母語において「可以吗?」「是否可以?」のような表現を用いていた。その結果、母語で同じ「週二日働きたいです、いいですか?」のような聞き手に威圧感を与える「念押し」表現を多く用いていることがわかった。このことから、中国語話者の日本語学習者の依頼のロールプレイにおいて「念押し」表現の使用率の高さは、母語転移の可能性が極めて高いことが推測された。

中国語では、途中で終了する言いさし表現は存在せず、逆に途中で言い終わる言い方は目上には失礼な印象を与えるという。互いの文化の違いがコミュニケーション上の問題と発展する可能性があるのではないだろうか。目上の人に対する「念押し」表現は、文法的な間違いとは言えず、言語形式上では正しい日本語である。しかし、社会において上下関係を重要視する日本では、聞き手との関係によっては、相手に不快感を与え、良好なコミュニケーションを阻害する恐れのある「危険な正用」であると言える。

#### 付 記

本研究は国立国語研究所のプロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」および科研費基盤(A)「海外連携による日本語学習者コーパスの構築および言語習得と教育への応用研究」に基づく研究成果の一部であり、迫田（印刷中）「中国語母語話者のロールプレイに見られる依頼表現—日本語学習者の「念押し」表現への言語転移の可能性—」『日中言語研究と日本語教育』の成果の一部をまとめたものである。

#### 文 献

- 生駒知子・志村明彦（1992）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー—『断り』という発話行為について—」『日本語教育』79号, pp.41-49. 日本語教育学会
- 柏崎秀子（1992）「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』79号, pp.53-63. 日本語教育学会
- 迫田久美子（2015）「学習者のロールプレイに見られる話し手の依頼表現」パネル発表『日本語学習者コーパスにおける対話』『論集 ヨーロッパ日本語教育』20. pp.102-107. ヨーロッパ日本語教師会
- 迫田久美子（2016）「学習者のロールプレイに見られる話し手の依頼表現（2）」パネル発表『学習者の発話データに基づく日本語の習得—存在表現、接続表現、依頼表現を中心に—』ICJLE2016, Proceeding (<http://bali-icjle2016.com/ja/>)
- 迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」『国語研プロジェクトレビュー』6:3, pp.93-110. 国立国語研究所
- 鮫島重喜（1998）「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定型表現・文末表現の習得過程—中国語話者の『依頼』『断り』『謝罪』—」『日本語教育』98号, pp.73-84. 日本語教育学会
- 李宜真（2008）「依頼の言語行動に関する日中語対照研究—ポライトネスの観点から—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』No.3, pp.117-129. 東北大学